



東近江市立 わかば幼稚園

園児数・クラス数

0歳児・・・9名 / 3歳児・・・79名(うち2号認定児30名)
 1歳児・・・18名 / 4歳児・・・72名(うち2号認定児36名)
 2歳児・・・19名 / 5歳児・・・80名(うち2号認定児41名)



研究主任育成研修から

・職員が自分の思いを出せるようになってほしい。
 ・いろいろな意見を出し合うことで新たな気づきが生まれる園内研にしたい。



《研究体制》

研究推進委員会(研究主任、推進委員会)

リーダー会

以上児・未満児部会

園内研究協議

子どもの姿とめざす子ども像を出し合う



・付箋の活用をする。
 ・色分けの付箋で書く。
 ・分類していく。



『心をはずませて 生き生きと遊ぶ子どもをめざして』
 ～ 様々な人やもの、自然とのかかわりのなかで ～

- 仮説① 子どもは保育者にありのままの姿を受け止められ、認められることで情緒が安定し、自分からいろいろな遊びに取り組むことができるのではないか。
- 仮説② 様々な人やもの、自然とのかかわりの中で互いに刺激を受け合ったり共感し合ったりすることで、達成感や満足感、人を思いやる気持ちが育ち、生き生きと遊べるようになるのではないか。

《研究方法》

○一人一人の実態把握と内面理解(研究保育、事例研究) ○環境構成の見直しと改善 ○地域との交流

- ・研修の見通しがもてるように研修の内容・終了時刻を知らせる。
- ・話の内容が深まるよう同じ意見を省いて話すよう伝える。



・付箋に自分の考えを書き、グループ協議でそれぞれの思いを出し合う。

・同じ意見をまとめながらポイントをまとめる
 ・話し合いの共通理解につなげる。

- ・図式化して表にし、掲示することで、保育者が意識できるようにする。
- ・協議に参加できなかった職員には、掲示したものを見ながら、研究主任が協議内容を伝えることで全職員が共有できるようにする。



たくさんの意見を整理しながら考えたことで、大きな気づきが生まれた。

成果と課題

- ・付箋を使い分類し、図式化することで共通理解ができ、職員が同じ方向に向けて保育ができるようになった。
- ・ワークショップ、ワールドカフェ、アイスブレイクなどを取り入れることで話しやすくなり、活発な意見が出るようになった。
- ・園内研の講師招聘時にはビデオを撮り、見ることで研修参加という形をとった。今後も周知ができる方法を考えていきたい。



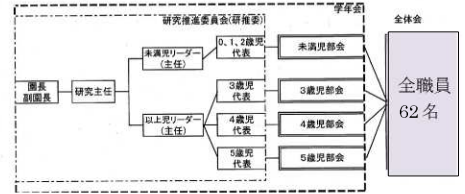


東近江市立 ひまわり幼稚園

講師の先生や幼児教育センターの先生からの助言
研究主任の願い

0、1歳児（2クラス）	29名
2歳児（1クラス）	24名
3歳児（3クラス）	82名
4歳児（4クラス）	89名
5歳児（4クラス）	88名
合計（12月現在）	312名

園内研究体制



① 4月 主題の設定

年齢ごとの発達の姿をしっかりと押さえよう！

研究主任育成研修会より

主題設定にあたり、『自分で』とは『考え』とは、年齢別に考えるといいですよ。

② 7月 公開保育

自分でやりたい遊びを選ぶことのできる環境を考えました。

大規模園って、選択肢がいっぱいあって楽しそうですね。

環境構成のためには、子どもの思いを読み取ることが大切です。

③ 8月 エピソード研

子どもの思いを空欄にして、グループで子どもの思いを出し合い、読み取りました。

こまかな環境に視点を当てたエピソードを取りためていくといいですよ。

そうか！研究主題は「環境」だった！

職員全員で研究内容を共通理解するため、職員室の入り口に研究コーナーを設置。

へえ～。こんな感じに環境を研究していくんだね。

エピソード研究会

子どもの思いを読み取る研究会にしたいな。

環境の再構成と子どもの変化を長期のスパンで記録できるような様式をつくるぞ！

研究主題

『自分で考え遊び出す子どもを目指して』 ～「やったー！」と遊び込める環境の工夫～

仮説

- 年齢や発達に応じた環境を工夫することで、子ども自身がやりたいと思う遊びを見つけ、遊び出しやすくなるだろう。
- 自分で考えたり、選んだりすることができる環境を構成することで、遊び込んだり、やり遂げたりした経験を積み、その中で達成感・有能感を感じて自信をつけ、自ら遊び出せるようになるのではないかと。

④ 9月 エピソードメモを記録し始める

どこに、どんな物を、どのタイミングで、どれだけ
こうなるのではないかと
子どもの姿
環境の再構成にこめた保育者の願い
どこに、どんな物を、どのタイミングで、どれだけ
こうなるのではないかと
子どもの姿

子どもの思いと保育者の思いとのズレを話し合うといいですよ。

⑤ 11月 エピソード研究

取りためたエピソードメモをもとにエピソードを作成し、子どもの思いと保育者の思いとのズレがなかったか。なぜズレたのかを話し合いました。

そういうことだったんだ！おもしろい！！

一つのこと、一つの言葉についてみんなで話し合うことで、深まり、読み取りができるようになってきますよ。

⑥ 12月 公開保育

この環境がよかったね。こうした方がよかったかな。

子どもが何をしたいかを見取ることが保育の充実につながりますね。

11月 指導案作成勉強会

【指導案】いつ、どこに、何を、何のために、どれくらい用意したのかが分かるように★前もって用意する環境構成と★遊び始めてから出す環境を分けて記載しました。

⑦ 公開保育のビデオ研究

公開保育時に撮影した動画を見て環境を振り返りました。

⑧ 次年度へつなげる

0～5歳児の遊びの流れ（発達）と環境について、段階を追って表にまとめました。

成果と課題

- ・大勢の子どもが生活にするに当たり、保育者が指示を出したり、きまりを決めたりすることが多く、「先生、〇〇してもいいですか」と聞く姿が多く見られていたが、『自分で考え遊び出す』ことのできる環境を構成したことで、自分のやりたいことを選んで遊び出す姿が見られるようになった。
- ・全職員で話し合う機会をもつことが難しいため、園内研究体制に準じて、研究推進委員会で方向性を話し合い、各学年におろしたり、意見を吸い上げたりすることで周知を図ることができた。
- ・環境に視点を当てた記録を取れるようにエピソードメモの様式を考え、全クラスが記入したことで、保育者全員で環境について考えることができた。
- ・研究会の後には必ずまとめをして、参加できなかった保育者に配布したり、研究コーナーに分かりやすく掲示したりすることで、全職員が同じ目的に向かって保育することができた。
- ・研究協議で話し合う視点や進め方を幼児教育センターの先生に助言をもらうことで、時間内に効率よく成果につながるような意見が出る協議ができるようになった。
- ・仮説の中の『自信をつける』という部分について議論を深めきれていない。仮説を立てる段階で、何をどんな方法で深めたいかを考えて仮説を立てたらよかったのではないかと。
- ・環境を設定するためには、子どもの姿をしっかりと見取ることが大事であることが分かり、子どものやりたいことや年齢ごとの発達を捉えた上で、環境を考えることの難しさを感じた。

東近江市立 中野むくのき幼児園

～ 安心して過ごせる環境の在り方を探る ～



3歳未満児：3クラス 3歳以上児：7クラス 全園児226名

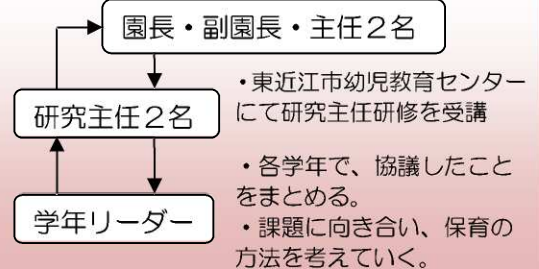
平成30年3月末に中野幼稚園、みつくり保育園が閉園し、4月1日から幼保連携型認定こども園「中野むくのき幼児園」としてスタートしました。今年度は、子ども、保護者、園、地域がつながり、理解し合えることを基盤とし「安心・安定して過ごせる園づくり」をめざしていきたいと考えて日々保育を展開し環境の在り方を探っています。

<研究の仮説>

- ・発達年齢に応じた生活リズムを大切にすることで、子ども達は安心して一日の見通しをもって過ごせるようになるのではない。
- ・様々な思いを受け止めてくれる保育者がいることで、気持ちが安定し、園生活の中で自分の居場所が見つけれられるのではない。
- ・子ども達がやってみたいと思えるような遊びを構成し、子どもの姿に応じてその遊びを再構成することで、安心して自己発揮できるようにするのではない。

新たなスタート！むくのきっ子の一人一人を大切にしよう！

<園内研究体制>



職員が、気持ちを出し合える時間と場が必要だね・・・



<実践>

- ① むくのき会「毎日ミーティング」明日の保育の流れを確認し、日ごろ感じる保育の中での不安感や安心感を話し合う。
- ② 学年代表が定時に参加し、「今日嬉しかった、楽しかった一言」を伝え合う。(情報共有)

もっと話したい。園内研究協議の時間帯を変えるなどして、職員が参加しやすい雰囲気になよう。

・グループ協議に入る前に、コミュニケーションゲームを取り入れる。研究会のねらい(多面的に物事を捉える)をゲームを通して実感してもらい、一人一人が話しやすい雰囲気に変えていく。
(研究主任研修での学び)

- ・グループ協議前に、ゲームをしたことで短時間でも気分がほぐれ、話しやすい雰囲気になった。職員間の安心感も生まれる。
- ・短時間勤務の職員が参加しやすいように、子ども達の午睡時間を研究会にする。参加者を増やしていくことで、誰もが、むくのき幼稚園の一員なんだと実感していける。
- ・夏季・冬季保育時間を利用して全職員が参加できるような日程を工夫する。

安心してなあに？ 子ども達の安心や職員の安心をみつけよう！

新しい園舎になったから、各学年部がどんな環境の中で過ごしているかもっと知りたいよね！

<実践>

育児担当制の目的や保育の実際について学び(未満児)

おさんぽしよ



- ・育児担当をすることで、個の育ちをしっかりと見ていける。
- ・保育者の動きが、子どもの変容に影響を与える。
- ・軍手人形がもたらす、愛着行動を全職員で理解する。

動線を考えて、環境作りをしよう！

事例研究、環境図・生活の流れの提示(以上児)



- ・各学年の課題をグループで話し合い、職員一同で解決策を出していく。
- ・生活の流れ、環境図から保育者の動きを理解して、安心できる環境を考える。2階園舎の使い方、ウッドデッキの活用方法など。

「課題と成果」

- ・園内研究は、参加がしやすく誰もが発言しやすい会議であることが大切です。会議をもつ時間の工夫をし、誰一人欠けることなく参加できた事は、研究の意識を高めることにつながりました。初心に立ち返り、生活の流れや環境の在り方にスポットを当てたことで、新しい環境の中で働く保育者自身の安心感にもつながり、子ども達の安全を守る環境作りに日々励んでこられたと思います。
- ・未満児保育の担当制では、実際の保育の動きを協議しながら、今後も子どもの落ち着ける環境を保障していかなければならないと職員一同で感じているところです。
- ・どの協議でも担任が課題と向き合い、悩んでいる気持ちに触れる場面がありました。参加者が思いやりを持ってその気持ちに寄り添えた事も「安心して過ごせる環境」作りへの第一歩だと思います。



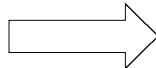
東近江市立
あかね幼稚園

「夢中になり伸び伸びと遊ぶ子どもの育成を目指して」

～自らやってみたくと思える環境構成や援助のあり方を探る～

園児数	171名
学級数	0歳児 1クラス
	1歳児 1クラス
	2歳児 2クラス
	3歳児 2クラス
	4歳児 2クラス
	5歳児 2クラス
合計	10クラス

仮説1 年齢に応じた保育環境を整える。
やってみたくと思える環境を整える。



満足感を味わう。
遊びの意識が高まる。
遊びが広がる。

仮説2 「できた」「楽しい」という成功体験。
子どもたちの遊びのおもしろさに共感する。
発達や課題に応じて子どもの姿・内面に
寄り添う。



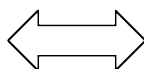
自信につながる。
信頼関係を築ける。
情緒が安定する。
安心して遊ぶ。



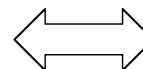
《園内研究組織》

研究会

園長 副園長
主任 研究主任



学年リーダー



担任

《研究内容与方法》

振り返ろう！
子ども達の成長と明日の保育のために
遊びの振り返りに焦点を当てて・・・
振り返りってどうするの？



他のクラスを見てみよう！！

他のクラスの振り返りを参観し、年齢に合った振り返りの仕方や次の日の遊びにつなげるためにどうしたらいいかを考えることができた。



シフト勤務、短時間勤務の職員も何らかの形で参加できるように！
ビデオ撮影をし、都合の良い時間に誰でも見られるようにしている。



環境視察



研究協議をしながら、環境を整えることができたので、すぐに保育に生かされた。

公開保育

振り返り視察

研究協議で活発な意見を！

経験年数によってグループ分けをし、話しやすく、意見を出しやすいようにしている。経験の浅い職員にも司会や記録・発表の機会を作り、学びの場になるようにしている。

若手の職員も気兼ねなく意見を述べることで、活発な意見交換につながった。



付箋紙の活用！

協議会に参加できない職員は、付箋に意見を書いて貼っておく！

研究協議に出席しない職員も感じたことを付箋に書き、貼ることで短時間勤務の職員の意識が高まる。また、たくさんの考えに触れ、話し合うことができた。



ホワイトボード活用！

職員室内のホワイトボードに次の予定や園全体で考えたいことなどを書き出し、日頃から一人一人の意識が高まるようにしている！



いつでも誰でも好きな時に書きこむことができ、また誰の目にもとまるところにあり、参考にすることができた。

研究主任からの発信

研究主任育成研修の学びから・・・

成果と課題

- ◎遊びの経験には個人差がある。その中で個々の子どもの心の動きに寄り添い、声を掛けたり環境を用意したりしたことで安心して園生活を送ることができるようになった。
- ◎戸外の保育環境は自分のクラスだけでなく、学年間で相談しながら進めることができた。
- ◎年齢に応じた保育環境を整えたことで、やりたいという環境があったことは子どもたちのやる気につながった。環境を整えていくことの大切さを再確認することができた。
- ◎未満児の公開保育や環境視察をし、園全体で同じテーマで考える機会となり0歳児から5歳児までつながりをもって保育を進めていくことができた。
- ◎様々な勤務体系の職員がいる中、園内研究全員参加を目指して、付箋を使ったりビデオ撮影を行ったりし、自分の都合のつくタイミングでビデオを見て学びの機会を設けるようにしていきたい。



研究巡回指導より

- 昨年の園内研での成果と課題から焦点を絞り、研究の方向性を見つける。
- 研究の主題を職員間で共有する。

研究主任の役割

- 園内研の主題、仮説の立案、共有
- 巡回S進行
- 進捗の振り返り

研究主題「やりたい できるよ たのしいな ～主体的に遊ぶ子どもを目指して～」

0歳児	いちご組	7名
1歳児	ばなな組	19名
2歳児	ぶどう組	20名
3歳児	たんぽぽ組	19名
	ちゅうりっぷ組	17名
4歳児	ひまわり組	29名
5歳児	こすもす組	22名
		合計 133名

＜研究仮説＞

- 1 年齢に応じた生活環境を整えることで気持ちが安定し、遊びの意欲(やりたい)につながるのではないか。
- 2 自ら遊び出したいくなるような環境があることで、満足感(できるよ)がえられ、自信につながるのではないか。
- 3 保育者や友達と遊びの楽しさや目的を共有し、環境を再構成していくことで、より遊びが深まる(たのしいな)のではないか。

＜研究内容と方法＞

- エピソード研究を通して「やりたい できるよ たのしいな」を探る。
- 公開保育や環境ツアーで保育室の環境を見直す。



山には驚き、発見、不思議がいっぱい！いろいろな生き物が暮らしているよ。



昨年の課題や子どもの育ちからどうテーマを絞ろうか？



幼児教育センターと共に

- 研究主任育成研修の学び
- 研究主題と仮説の設定
 - ・ 指導員の助言のもと主題を絞りこむ。
 - ・ 研究推進会議にて再協議し職員間で共有する。



環境ツアー

○ 公開保育後に、「環境シート」(子どもの姿や保育者の願いから環境の工夫や保育者の援助、環境構成図に記入した)をもとに、子どもの姿や遊びの様子を振り返りながら保育室の環境を見ていく。生活のしやすさや、やってみたくなる遊びの環境を視点に研究協議を行う。

里山保育から
○ 河辺いきもの森より学芸員を招聘し、ボランティア山貴会さんの見守りのもと、山本山散策やネイチャーゲームなど自然体験を行う。
○ 身近な自然へ興味を広げ、自然物を遊びに取り入れる。



公開保育と研究協議

○ 0歳児から5歳児各学年の公開保育を行う。



○ 研究協議では、付箋を利用し「やりたい」「できるよ」「たのしいな」の3つの視点から研究協議を行う。



○ みんなで見合うことは様々な視点で見ることにつながり、たくさんの気づきがある。環境シートの記入は日々の保育を振り返りとなり、担任の悩みを共有しながらアドバイスをし合う中で環境の再構成へとつながる。



エピソード研究

○ 主体的に遊んでいる一場面をエピソードとして書き出し、職員みんなで子どもの内面や発達を分析する。



ままごとコーナーを充実させたいな・・・



町のイメージをどう表現したかな？

同じ場で何回も遊んでいたね！

成果と課題

- 公開保育から「やりたい」「できるよ」「たのしいな」の視点で話し合いを進めたことにより「思わず遊びたくなるような保育室の環境づくり」や「子どもと一緒に進める環境の再構成の大切さ」などが見えてきた。しかし、研究を進めていく中で、付箋を活用しきれず考察や成果を職員間で共有しにくかったため、協議のまとめ・考察の仕方を工夫していきたい。
- 環境シートの作成では「今までの保育」「これからしたい保育」の考えを整理し、環境構成につなげることができた。また、環境ツアーを通して実際に保育室の環境を見ながら意見を交わしたことで、「年齢に応じた環境と遊び」「思わず遊び出したいくなる環境」の在り方について具体的に学ぶことができた。
- エピソード研究では主体的に遊ぶ子どもの育成のために、エピソードから幼児の心の動きを読み取り年齢に応じた保育者の援助について話し合うことができた。
- 遊びたくなる環境を考察し、子どもの生活経験や興味・内面理解に努めていながら遊びの投げかけや環境の工夫をしいたことで子ども自ら遊びに向かう姿が見られた。そして、年齢に応じた保育者のかかわりや環境の再構成を継続していくことの大切さ学んだ。
- 研究主任として取り組んでいく中で、研究主題にせまる環境の在り方について進めてきたが、さらに主体的に遊ぶ具体的な姿について協議を深めていく必要性を感じた。また、限られた時間を有効に使えるような工夫をしていくことでより協議が深められるように改善を図り、研究体制を活かして研究の取組や主体的な姿の在り方など、職員間が共通理解をしながら進めていくことの大切さを学ぶことができた。



のびのびと遊べる子どもを目指して

「やってみたい」「できた」「もっとやってみたい」



東近江市立さくらんぼ幼稚園

	2・3号認定	1号認定	計
0歳児	9		9
1歳児	24		24
2歳児	28		28
3歳児	25	16	41
4歳児	33	14	47
5歳児	39	19	58
計	158	49	207

仮説1
自分の思いを受け止め、共感してくれる保育者が側にいることで、情緒が安定し自ら「やってみたい」といろいろな遊びに取り組むことができるのではないか。

仮説2
子どもの興味や関心を保育者が読み取り、適切な環境設定や援助をすることによって「できた」と充実感を味わい、自分の思いを豊かに表現できるのではないか。

仮説3
身近な人や物との関わりを通して、刺激を受け合うことによって「もっとやってみたい」と意欲を高めることができるのではないか。



幼児教育センター主催の研修主任研修

→園内研究推進委員会で復命・検討



★公開保育をしてお互いの保育を見合う。

色々な視点で子どもを見て、子どもの思いにせまる。

付箋を使って思いを出し合う。

★子どもの姿をエピソード記録として書き貯める。

その中から子どもの姿を読み取り環境構成に活かす。

「いないいないばあ〜」



「できた！」 「おいしいよ」 「これ、なに〜？」 「チャレンジ！」

研究主任が幼児教育センターの研修を受けたことで研究推進委員が研究の視点を明確にし、誰もが参加しやすい協議の進め方を検討し実践することができた。

★保護者へ発信する

子どもの育ちを共有し、共に支え成長を喜び合う。



保護者も足を止めて子どもの遊びの軌跡を知る。

★講師の先生を招いて指導を受ける

子どもへの温かい眼差しや研究の進め方、まとめ方の指導をいただき、保育の楽しさを再発見し研究が一步進む。

★以上児部会

「泥んこ 気持ちいいね♡」



「むずかしいな・・・」 「見て！見て！」

園庭の環境や行事への取り組み方、縦割り活動の計画等、保育を進めるうえで細かい内容も具体的に話し合う。

★未満児部会

★事例研究をする

グループ討議では付箋を利用して子どもの思いの変化や動機を探り、環境の再構成に繋げていく。

中庭やプレイルームの環境、未満児の行事の計画、手作りおもちゃの制作計画等を話し合う。

今後にむけて

- *エピソード記録を書き貯めたり事例研究で子どもの内面に迫ったりしたことで、子どもの思いや遊びたいという気持ちが芽生える環境との出会い等、細かな視点で子どもの姿を捉えられるようになってきた。今後その姿を幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿と関わって捉えられるように研修していきたい。
- *今年度は園内研究会に参加する職員に限られていたので、短時間職員も含めて、できるだけ多くの職員が園内研究の場に参加できるような体制づくりをし、共通の思いで子どもの育ちを支えていけるようにしていきたい。また、その成課を保護者にも積極的に発信していき子どもの育ちを共有していきたい。
- *研究主任が学んできた事を大人数の職員に伝達するために幼児教育センターの研修後や園内研究会実施日に合わせて研究推進委員会を開催してきたが、研究主任の負担も考慮し今後は職員体制を整えて研修に複数参加できるようにしていきたい。



東近江市立五個荘あじさい幼稚園



3歳児 いちご組 16名
(1号14名 2号2名)
4歳児 たんぼほ組 34名
(1号25名 2号9名)
5歳児 すみれ組 25名
(1号21名 2号4名)



平成30年度園内研究 主題
「体を動かすって楽しいな！」
～「やりたい」気持ちがわきおこる、環境や援助のあり方を探る～

園内研究の主題決定

- ・昨年の子どもの姿は・・・
- ・園の子ども達の弱い部分は何？
- ・園の子ども達がどんな風に育ってほしい？

園内研究の仮説

ブレインストーミング方法により職員の見聞集約。
☆体を動かすことが楽しいと感じる姿
☆やりたい気持ちがわきおこる環境や援助の在り方とは何かを出し合い、見てわかりやすい「仮説図」となり、共通理解することができた。

東近江市幼児教育センターとの連携

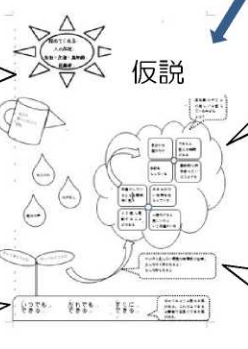
- ・園内体制チェックシートによる園内体制のアドバイス。
- ・園内研究会に指導助言として、指導員来園。
- ・保育士の資質向上のため、保育力アップ研修への参加。
- ・園内研究主任の育成研修に研究主任参加。

仮説③

認めてくれる人の存在があり、個々に応じた援助(栄養)を受けることで「やってみよう」の気持ちが育つのではないかな。

仮説①

「いつでもできる、誰でもできる、すぐにできる」根っこを張りめぐらせよう。



こんな風に子ども達が育つといいな。

仮説②

「やってみようかな」小さな気持ちが伸びてくる瞬間を見逃さない。マンネリ化せず、環境を見直し、挑戦意欲を刺激していく。



研究主任はファシリテーター！！勤務体系が様々な職員一人一人だが、それぞれの意見を集約する。職員一人一人がチームの一員である自覚をもって進めていく、かじ取り役となる。

園内研究会の方法

環境シートの作成

テラス・庭庭の環境シートに遊びの様子を書き込み、遊びだしや活動中のつぶやき、困り感などを拾い上げていき書き込む。

公開保育

3歳児・5歳児の研究保育・研究協議を行いました。やりたい気持ちがわきおこる環境や援助について成果や課題を出し合った。

環境見直し隊！！

シートから読み取った子ども達の動き、興味関心の矛先を考え、次の展開を踏まえたうえで、物の出し方、減らし方、配置を検討する。動線などによって、配置を変え、準備して遊びだすことを見据えての置き場なども検討してきた。

今日のことは！

周りにいた子ども達のつぶやき、遊びの展開など、どんな風に遊びが進んでいるのか、どんなことを発信しているのかなど、今日のことはエピソードとして書き溜めてきた。多面的な視点で子ども達を捉えることができた。



私も見つけたよ！

ドキュメントシート

「今日はこんなことして遊んだよ」職員室の出入り口にドキュメントシートを貼っておき、ブレインストーミング方式で、子どもの姿、つぶやき、活動の変化などの集約を図ってきた。一枚のシートを2週間貼りだし、一週ごとにポストイットの色を変えることで、遊びの流れや子ども達の遊びへの変化を感じ取ることができた。週案会議で、そのシートから読み取れる状況に合わせて、保育の展開を考える礎となった。

講師を招聘し職員研修

子ども達の現状に見合った遊び方、体を動かすことが楽しいと感じる遊びの投げかけ方、やりたいことが見つけにくい子ども達へのかかわり方などを聞いて実践につなげてきた。

明日から取り入れてみよう。

「今日もこれしてあそぼう」
*期待

「～ちゃんみたいにやってみよう」
*刺激

「〇〇組さんみたいになりたいな」
*憧れ

「あれ出して遊ぼう」
*遊びの準備



園内研究を進めてきた中での課題

- ・意見を集約し、まとめて図式化したものや、方向性について全職員に周知徹底を行ってきた。しかし、環境への配慮や、子ども達へのかかわり方など同じ方向を見据える意識に温度差が生じることがあり、周知の仕方、園内研究の進捗状況の伝え方を改善する必要がある。



東近江市立湖東ひばり幼稚園

研究主題

心と体を弾ませて伸び伸びと遊ぶ子どもをめざして

～「やってみよう」「できた」「おもしろいな」「もっとやりたいな」と思えるような運動遊びの環境構成や援助の在り方を探る～

学級編成

0歳児	1クラス	10名	3歳児	3クラス	70名
1歳児	2クラス	23名	4歳児	3クラス	75名
2歳児	2クラス	29名	5歳児	3クラス	71名
					計 278名

環境

日々の遊びの中で年齢に応じた運動遊びや思わず体を動かしたくなる環境構成を工夫することにより、子どもたちは「やってみよう」「できた」「おもしろいな」「もっとやりたいな」と感じ自ら繰り返し取り組もうとするのではないかな。

仮説1

気持ち

子どもは保育者に遊びの中で感じる個々の思いや姿を受け止めてもらったり、共感してもらったりすることで安心感や満足感を味わい、それが自信となり自ら体を動かそうとする意欲につながるのではないかな。

仮説2

友達との関わり

友達と一緒に体を動かして遊ぶことで、刺激し合ったり認め合ったりし、体を動かす楽しさや充実感を味わうことで、もっと多様な体の動かし方を考え、見通しをもって自らの遊びをつくりだすのではないかな。

仮説3

check!



～研究体制～

まずは研究主任、主任、副園長、園長で相談して提案する

クラス担任に伝え共通理解する



研究主任育成研修の学びから、仮説の共通理解のためカテゴリ分けを行う



話し合った内容や決まったこと等を掲示したり紙面で配布したりして全職員に周知する

～方法と内容～

1. 思わず体を動かしたくなる環境や取組み

<やってみよう! できた! もういっぱい>

運動会の玉入れの経験から発展した「ボール転がし」。

保育者は「おもしろいな、もう一回」と思えるような遊びを、子どもたちが見つけ出したり、つくり出したりできるように声掛けや必要なものを用意して遊びが広がるようにしている。

女子野球チームに教えてもらったことがきっかけで始まった「ティーボール」。

<運動環境ボードの作成と活用>



運動遊びを楽しむ子どもの表情やつぶやきを吹き出しに書き貼ることで、各学年のしている運動遊びが分かりやすく、子どもたちの姿の振り返りにもなっている。

<ひばりっこタイム>



3, 4, 5歳児を中心に水曜日と金曜日にマラソンや体操を全学年でしている。

今日はどんな体操かな?



5歳児は走った回数分かるようにゴムを手首にはめている。

こんなに走ったよ。おもしろいなもっと走ろう!



<チャレンジタイム>



ひばりっこタイムの後や好きな遊びの時間などに、カードを使用しながら自分なりの目標をもって取り組んでいる。

先生、見て～

2. 内面理解の話し合い



年間を通して同じグループで話し合う。考察抜きでエピソードのみの事例を用いているような視点から子どもの内面を読み取る。

保育の様子を見て子どもの表情やつぶやき、保育者の関わり方、声掛けなど仮説に迫りながら協議する。



公開保育や事例研究を通して各年齢で育つ気持ちや運動発達、研究の進め方について講師より助言をもらう。

▶ 成果と課題

- 運動環境ボードをつくり、職員室の目につくところに置くことでそれぞれの学年が取り組んでいる運動遊びを園の職員全員で共通理解ができるようになってきた。また、子どもの姿やつぶやきを付箋に記録として残すことで良い点や改善点を確認し、環境の再構成をすることができた。
- チャレンジタイムやひばりっこタイムのように意図的に体を動かす時間をつくることで、運動遊びの苦手な子どもも友達の様子を見ることで刺激となって「やってみよう」と感じたり、みんなと一緒にすると「たのしい、おもしろい」という気持ちにつながり始めている。
- 定期的な事例研究や公開保育を行い、運動環境や子どもの内面理解について意見交換したり、講師の先生より指導を受けたりすることで、職員それぞれの視点や考え方を知り、子どもの見方や環境を見直す機会になった。今後も改善点を確認しながら環境づくりを行なっていきたい。
- 子どもたちの動線にケンパの線などをつけたことで、通るたびに自然と体を動かすことができた。戸外では、雲梯に色のテープを付けたことで、子どもたちは自分なりに目標をもって繰り返し取り組むことができた。また、保育者に励ましてもらったり認めてもらったりすることで、意欲や自信につながっている。
- 講師の先生より、「やってみよう」という気持ちをもつためにはそれぞれの子どもの力に応じた環境や取り組みを提供していくことが大切だと学んだ。チャレンジカードでは、どの子どもでもできるものと、少し頑張らないとできない挑戦するものを用意し、力に合ったものを自分で選ぶことで「できた」「もっとやりたい」という気持ちにつながっていくように今後も考えていきたい。また、職員自身も「やってみよう」「おもしろいな」と感じられるような遊びや環境を今後もつくり出していこうと思う。

東近江市立ちどり幼稚園



0歳児	もも組	6名
1歳児	さくら組	11名
2歳児	すみれ組	17名
3歳児	たんぽぽ組	16名
	あさがお組	17名
4歳児	ゆり組	33名
5歳児	ひまわり組	32名
	計	132名



研究主題
 子どもの心を育てる主体性を大切にされた保育とは
 ～子どもの心が動いたエピソードを通して～

仮説1

子どもが主体的に生活し、遊ぶことのできる環境を構成する。

↓

子どもの心は動き、試行錯誤をするようになるだろう。

仮説2

保育者が子どもの心の動きに気づき、援助をする。

↓

保育者に見守られながら主体的に遊ぶようになるだろう。

仮説3

幼児期の終わりまでに育て欲しい10の姿を焦点に協議をし、同じ目線で子どもの心の動きを探る。

↓

同じ方向性で子どもに関わることができるようになるだろう。

「研究テーマを深めたい！」
 幼児教育センター実施の**研究主任育成研修**を受け、研究主題・仮説を変更し、主体性についてアンケートをとった。

環境構成

【公開保育】
 2回の公開保育を行い、研究協議をしました。子どもが主体的に遊んでいる姿から環境や援助の成果と課題について話し合いました。

援助

研究主任のつづゆき

【環境図の作成】
 学期に一枚、保育室の環境図を書いています。子どもが主体的に遊び出せるような工夫、これからの展望も書き込んでいます。

子どもの思いを読み取った環境をみんなで考えたい！

【環境研究・環境ツアー】
 実際に保育室の環境を見て意見交換をしたり、再構成をしたりして、子どもが主体的に遊べる環境を考えました。

Before

After

【手作りの環境】
 愛情たっぷりの手作りの環境を用意したいとの思いから、1、2、3歳児にキッチン台、4、5歳児に棚を手作りました。

いっぱい遊んでくれるかな

子どもの心が動いた瞬間
ドキドキ！きゅん！



～ちどり幼稚園の主体性の捉えかた～

- *子どもが主人公！自分で決めたり、進めたりできること
- *大好きなことを見つけて夢中になってやってみようとする



【ちょこっとエピソード】
 子どもの心が動いた瞬間を記録にとり、「幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿」と照らし合わせて読み取っています。

子どもの心の動きの読み取りやクラスの話合いのきっかけになってほしい！

あの子の姿をみんなに知って欲しいな！

【エピソード共有ボード】
 エピソードは、園長・主任に読んでもらった後、職員室に掲示しました。こうすることで、エピソードや保育者の思いも共有することができました。

もうちょっと頑張って書こう！

【エピソード研究】
 ちょこっとエピソードから取り上げたものをみんなで考察しました。子どもの心の動きについて、じっくりと話し合いました。

へえ、その意見、面白いな

【研究方法】
 *KJ法
 →協議前にカテゴリー分けをしておく
 *ワールドカフェ

【課題とこれからのについて】

- 保育者に内面理解してもらった子が安心して人に関わったり、やってみたいと思える環境を構成したことで意欲がもて主体的に遊び出したりするようになった。研究を通して築いてきた安心できる人間関係と環境の中で、子どもが自己発揮をするようになってきた。
- 主題や仮説の周知が十分でなかった。主題や仮説を園内研の度にレジюмеに載せたり、掲示したりして意識できるようにしたら良かったのではないかな。
- 2号認定児が多く会に参加できる人数が限られていた。乳児の保育者全員が学ぶ日、幼児の保育者が全員で学ぶ日と分けると良いのではないかな。そのことで、具体的で深い協議ができ、また、全員が学ぶ機会となり園の保育の質の向上に繋がるのではないかな。

KJ法は、たくさん意見が出るが、話しにくい雰囲気になり、また時間が足りないこともあった。

ワールドカフェですると、話しやすい雰囲気になり様々な意見が出た。

KJ法でも、先にカテゴリー分けをし、司会者と打ち合わせしておく、テーマからずれずに話げできた。さらに、意見を考える時間がなくなり、+αの話合いができた。



環境や援助の在り方を探る～

0歳児 1クラス 5名 / 3歳児 2クラス 38名(うち 2号認定児 21名)
 1歳児 1クラス 19名 / 4歳児 2クラス 62名(うち 2号認定児 30名)
 2歳児 1クラス 20名 / 5歳児 2クラス 45名(うち 2号認定児 19名)

仮説①年下の友達と接することで、他者への思いやりの気持ちを持ち、優しく関わろうとする姿が見られるのではないか。
 ②年上の友達との関わりの中で、あこがれの気持ちを持ち、新たな活動への意欲をもつのではないか。
 ③異年齢の自然な交流ができる環境構成や適切な援助をし、異年齢児との関わりの中で認められることで、自尊感情が育つのではないか。

研究の内容と方法

- 公開研究保育 ○講師招聘
- 一人一人の実態把握と保育者間の共通理解
- ・異年齢交流の年間計画を立てる。
- ・子どもの育ちや交流につながる保育内容と援助の見直し、検討を行う。
- ・エピソード記録を取り子どもの内面理解をする。
- ・全体的な計画、月案などの見直しをする。



次の期に向けて評価反省を記入

